

1 学校教育目標

心豊かで活力にあふれた個性ある生徒を育成し、将来、世界で活躍できるグローバルな視点と能力を持つ、故郷熊本を支える地域人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) グローバルな視点と能力を身につけた、地域に貢献できる人材を育成する。
- (2) 進路目標達成のためにキャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成する。
- (3) 全ての教育活動をとおして規範意識を高め、自信と誇りを持った生徒を育成する。
- (4) 人権尊重の精神を養い、互いの個性を尊重し、自他を大切にしている生徒を育成する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学科らしい教育課程の編成 ○進路選択に合わせた適切な科目選択 	<ul style="list-style-type: none"> ○教務・総合学科研究部が連携した教育課程検討委員会の実施 ○授業見学等をとおした科目選択ガイダンスの充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○科目の選択の幅を広げる協議を行った。R6以降については更に協議が必要。 ○年次のガイダンス時期をずらし混乱を避けた。指導者側の研修を増やしているが更なる充実が必要。
	開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の取組や学校の最新情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT運営部(2年目) SNSによる情報発信 ○広報・ホームページ委員会、総務部を中心に、各部・各学科・各年次が連携した学校の最新情報の計画的な発信 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科、年次などからの定期的な記事の投稿が見られ、魅力発信を行うことができた。
			<ul style="list-style-type: none"> ○地域企業へ本校教育活動の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○菊池地域企業推進プロジェクト、地域企業との情報交換会、地域工場見学会等の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○県北企業ガイダンスはオンラインで実施。 ○地域工場見学は3月、6月には地元企業ガイダンスを実施。
	業務改善	各校務分掌における課題の洗い出しと改善	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職による主任・主事からの各分掌部が抱える課題等の聞き取り及び共有化 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の各校務分掌が抱えるボトルネック要因の洗い出し ○業務の棚卸しの実施及び組み替え・見直しの実施 ○以上を踏まえた次年度計画の策定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○面談をとおして主任・主事からの聞き取りにより各分掌部の状況を把握した。 ○把握した状況を踏まえて次年度の計画を策定している。
働き方改革	セルフマネジメントの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務時間 45時間以内 ○年次有給休暇年 12日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○定時退勤日、一斉休業日の設定 ○仕事の棚おろし表作成 ○時間外業務管理 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○8月に4日間の学校休業日を設定した。 	

			得	○定期的な職員への声かけ		○時間外業務が多い職員に対しては日常的な声掛け、面談や産業医面談を行った。
学力向上	学力の向上	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究	○教科横断的な視点に立った授業の推進 ○ICT機器を効果的に用いた授業、オンライン授業の研究 ○指導と評価の一体化の推進	○観点別学習評価における職員研修の充実 ○外部講師の招聘、校内研修の実施 ○効果的な評価の在り方（ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等）の研究 ○観点別学習評価の研究	A	○年4回の職員研修を実施し、観点別学習評価の内容や指導と評価の一体化について各教科で深めることができた。
			○公開授業の校内参観率の向上 ○外部からの授業参加者数の増加	○研修立案、参観記入シートの改善 ○対外的行事に合わせた授業参観の企画	B	○年3回の公開授業週間を計画したが、感染拡大防止のため、外部からの参加は見合わせた。
		学習習慣の確立	○家庭学習1時間+ α ○質の高い学習（計画・実践）の定着 ○学習のPDCAサイクルづくり	○家庭学習時間調査の実施、結果分析、改善策の提案・実行 ○授業評価アンケートの実施、結果分析、授業改善策の提案・実行 ○スコラ手帳の効果的活用法の提示	A	○家庭学習時間調査及び授業評価アンケートを年2回ずつ実施し、調査項目を教科ごとに細分化し、調査結果を教科にフィードバックすることができた。
			職業観の育成	○「働くこと」に対する理解を深める ○自己理解の推進	○外部講師による研修会等の実施 ○教材エナジードの積極的活用 ○外部の適性診断テスト活用による自己理解の促進	A
キャリア教育	キャリア教育の推進	キャリア教育のシステム化	○科目「産業社会と人間」の充実 ○インターンシップの充実 ○3年次総合的な探究の時間の充実	○自らの進路選択との関係性を明確にした職業研究プロジェクトの実施 ○企業開拓及び全職員の協力による事前事後指導の充実 ○幅広い分野とのつながりを持った探究活動の実施	A	○探究活動の第一歩として「修学旅行探究」を実施した。また、新学習指導要領における新しい評価で実施できた。

						<ul style="list-style-type: none"> ○昨年より事業所数が増え120の事業所に協力をいただき実施した。 ○3年次生全員による探究活動のポスターセッションが実施できた。今後は中身の充実を図りたい。
進路保障	進路目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> ○就職目標 進路目標の100%達成 公務員合格率70%以上 ○進学目標 第1次合格率90% ○故郷熊本を支える地方創生への積極的推進 ○高い目標へ挑戦及び個性を生かした推薦入試への挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標設定や実現のための面談の充実 ○全職員による面接指導の充実 ○専門系列と2・3年次との情報共有 ○オンラインへの対応 ○作文・小論文指導の充実 ○関係外部機関（大津町役場、県北本部）との連携 ○コロナ禍における状況の情報共有及び組織的対応 ○総合学科研究部との連携の強化 ○個性を活かした大学推薦入試への挑戦 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○就職内定率ほぼ100%達成。県内就職率88%。 ○公務員合格率76%。 ○進学目標第1次合格率96%。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ○適応指導の充実 ○進学就職内定者指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本しごとコーディネーターとの面談でミスマッチの無い受験 ○生徒の目線にたった離職・退学防止のための年次と連携したLHR指導 ○オープンキャンパスへの参加推進 ○上級学校訪問等の充実 ○保護者の理解を深めるため、年次保護者会等を実施（HPの活用） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年3回（2月、6月、8月）キャリアサポーター兼しごとコーディネーターとの面談の実施。 ○キャリアサポーターによる企業訪問の実施。 	
生徒指導	生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ○整容指導の徹底 ○始業時間の厳守 ○挨拶の徹底 ○規範意識の向上 ○特別指導件数10件以下 ○無断アルバイトの根絶 ○盗難件数 0件 ○二重ロック率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員の共通理解での指導の徹底 ○自ら考えさせる容儀指導・生活指導の充実 ○問題行動の未然防止の取組の充実 ○家庭への連絡・連携の充実 ○交通委員会による啓発と点検 ○年間をとおした登校指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○職員からの指導は行われているが、再指導になる生徒が40名程度見られる。 ○今年度の問題行動の発生件数は30件に至る。 ○二重ロック率は60%程度で今後の徹底が必要。 	

		自主自立の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動の活性化 ○さまざまな活動への意欲的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒総会の充実 ○体育大会・文化祭等の学校行事の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会と学校のルールについて2回話し合いを行った。 ○コロナ禍で制限のある行事を展開することになったが生徒会を中心に活発に行われた。
交通安全指導	交通安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全に対する意識の向上 ○重大事故件数0 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全講話・通学方法別集会の実施 ○単車通学生への実技講習及び安全指導（年3回） ○自転車通学生への安全指導の実施 ○危険予知能力を向上させるためのLHRの実施 		B	<ul style="list-style-type: none"> ○通学方法別集会の実施が遅れ生徒への交通安全への啓発が充分できていない。 ○交通安全の講話には大津警察署より講演をして頂き生徒への啓発ができた。 ○原付通学や自転車通学について苦情を受けることが多くその都度集会等を実施している。 ○危険予知能力等の習得のためのLHRを今後行う必要がある。 ○入院が必要な事故は自動二輪の後ろに乗って起きたものがある。重大な事故には至っていないが打撲等で通院が必要な事故が無断原付運転で1件、自転車通学で2件起きている。
ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的なボランティアへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア委員会活動の活性化 ○タイムリーな活動紹介と募集 		B	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア委員会の活動は活動紹介や募集を積極的に行われているが、コロナ禍で参加を控える様子が見られた。

	部活動の推進	心身の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動加入の推奨 ○自尊感情の育成 ○奉仕精神の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動見学会の実施等により、加入率80% ○キャリア教育との連携 ○部活動実績のHPでの紹介 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動見学会により今年度運動部在籍数411名、文化部192名で加入率は73%で80%には及ばなかった。 ○企業の方から在学中の活動を聞き社会で役に立っていること等を伺うことができた。 ○今年度は60件活動をHPにアップしている。
人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○人権問題についての正しい理解と認識の深化 ○身の回りにある不条理な差別を見抜き、正しく行動できる力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な職員研修の実施と校外研修への積極的な参加 ○生徒人権集会、人権教育LHR、人権教育講演会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は旭志解放保護者会との研修をはじめ、以前のように校外研修も対面で行われることもあった。オンライン研修も含めて職員の積極的な参加があった。 ○生徒人権集会2回と人権教育講演会は、年次を分けてオンラインで実施することができた。
	教育相談	教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援体制の確立と強化 ○悩み相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員同士の情報共有体制の強化 ○保護者、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、専門機関との連携 ○個別の教育支援計画・指導計画の策定 ○通級指導の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒理解研修を4月と6月の2回実施した。 ○SCとの面談を年間20回実施した。昨年度に比べて保護者からの相談が増えた。 ○2、3年次各1名に対して、通級指導を実施した。また、来年度の対象生徒の検討も行った。
	命を大切に育む指導	自他を尊重する心を育てる指導	<ul style="list-style-type: none"> ○「生命の大切さ」の指導の徹底 ○生徒の自発的・自立的な道徳的行為の涵養への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育全体計画の検証 ○命を大切に作る観点からの授業実施 ○生徒・保護者への広報・啓発 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育LHRを各年次で実施した。1年次は教科書無償等の身近な差別について、2年次は差別の構造について、3年次は水俣病差別、就職差別について実施した。

						○県教委や文部科学省等からのポスター等を掲示して啓発に努めた。
いじめの防止等	安心安全な学校生活	いじめを生まない環境づくり	○いじめ防止対策へ向けた組織対策の確立 ○重大対応マニュアルの職員への周知 ○保護者との連携強化 ○いじめ未然防止と早期発見 ○SNS被害防止への取組	○いじめ防止対策委員会（3回）・小委員会（4回）の開催 ○家庭訪問及び定期的な個人面談の実施 ○いじめ実態把握調査の実施（年2回のアンケート実施） ○教育相談の活性化 ○外部専門家からの指導助言 ○生徒会、委員会による啓発活動 ○スクールサインを利用した早期発見 ○SNS被害防止のための講演会や全校集会での啓発 ○保護者集会での啓発	A	○いじめ防止等対策委員会により軽微なものを認定し担任や早期に対応し重大事案とならないよう未然防止に取り組むことができた。 ○年度当初に重大対応マニュアルの確認を全職員対象に行った。 ○各学期の始まりと終わりや各行事、生徒総会で全生徒へSNSの使い方やいじめ防止について注意喚起を生徒指導部、生徒会、風紀委員会それぞれで役割を分担しながら取り組んだ。 ○今年度スクールサインを利用した通報は見られなかった ○入学説明会や進路説明会等で保護者にSNSやいじめ防止の啓発をおこなった
			○健康観察の充実 ○感染症対策の実施 ○健康教育の充実 ○よりよい生活習慣の推進	○タブレット等での入力により把握の迅速化を図り、早期対応に努める。 ○全職員による感染症の予防的対応 ○個別面談、保健指導の実施 ○生徒保健委員会活動の活性化	A	○体調不良者、欠席状況を1限目中には把握し、感染拡大予防ができた ○継続的な日々の委員会活動を行い、翔陽祭では大賞を受賞した
保健管理	健康教育	健康な体と豊かな心の育成	○健康観察の充実 ○感染症対策の実施 ○健康教育の充実 ○よりよい生活習慣の推進	○タブレット等での入力により把握の迅速化を図り、早期対応に努める。 ○全職員による感染症の予防的対応 ○個別面談、保健指導の実施 ○生徒保健委員会活動の活性化	A	○体調不良者、欠席状況を1限目中には把握し、感染拡大予防ができた ○継続的な日々の委員会活動を行い、翔陽祭では大賞を受賞した
		救急救命研修会の実施	○応急処置及び救急救命蘇生法研修会の計画と実施	○蘇生法、緊急時対応の動画視聴とフローチャートの確認と徹底。 ○実技の多い科目の職員に対する特別講習会の実施。	B	○系列での救急救命蘇生法講習を実施。全体での講習は行えなかった

教育環境整備	安全管理	施設設備の安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○安全点検の確実な実施 ○危険箇所への確実な対応 ○ハザードマップ等の啓発資料等の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ○「安全点検週間」を設けることによる実施率の向上 ○点検結果の集約及び関係職員又は前職員への周知 ○防災避難訓練の徹底、校内の避難経路の作成と周知、登下校時の指定避難場所の周知 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○評価後のアンケートをもとに再検討用の覚書を作成。 ○施設面における課題（危険箇所）については管理職に相談し、改善していく。
	学校版環境ISOの推進	環境美化の徹底と環境問題への意識高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○5S活動の充実 ○節電・節水（省エネ推進）3～10%の削減 ○ゴミの減量化 可燃ゴミ重量昨年比、5%減少 	<ul style="list-style-type: none"> ○あらゆる場面での整理・整頓・清掃・清潔・躰の指導徹底 ○ゴミ分別の徹底 ○ゴミ持ち帰り活動の啓発 ○環境美化コンクールの実施 ○「節電・節水」の掲示物等の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○月に1度、5S活動の生徒への周知を美化委員会で取り組んだ。清掃に対する取り組みが課題。 ○ゴミの分別においては再度分別を周知する等、意識を高める必要がある。 ○ゴミの持ち帰り啓発についてはペットボトルや空き缶の持ち帰りの呼び掛けや捨てる場所の制限などに取り組んだ。今後も学校全体での取り組みが必要である。 ○環境美化コンクールは今年度も実施できず、掃除の取り組み向上に向けて来年度実施に向けて準備する。 ○節電に関してはコロナ禍で窓を開放して冷暖房を使用したため使用量は増加したが、未使用の教室の電灯やエアコンを切ることなどを継続して指導した。
	教育の情報化	学校組織的としての教育情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校情報化認定の更新 ○情報活用能力育成の教育課程上の位置づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校情報化認定の3年ごとの更新に向けた取り組みの周知 ○チェック項目の集計、および認定更新に向けた情報提供 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度の更新に向け、生徒や職員への情報提供を行い、継続した取り組みを続けている。

				○情報教育検討チームを作成し、情報活用能力の横断的な育成に向けた取り組みの検討		また、更手順についての分掌内の引継ぎを行った。
		授業における効果的なICTの活用 の推進	○全教職員のICTを活用した指導力の向上 ○全生徒のICTを利用した情報活用能力の向上	○外部講師を活用した定期的な職員研修の実施 ○校内における活用方法の共有（ミニ研修や広報の作成） ○公開授業等でのICT機器を活用した授業の積極的な参観 ○各種講習会の紹介及び受講の促進 ○各授業や諸活動での端末の積極的な利用の促進 ○LHRや集会等での活用能力の向上や情報モラルの意識向上 ○生徒同士の自治的な活用の促進（ICT支援生徒サポーターの活用）	A	○県主催の講座を活用して、職員の情報モラルを向上させ、生徒への意識向上につなげた。 ○活用は進んでいるが、生徒の学力向上に向けた取り組みが必要と考えるため、ミニ研修会などを活性化し、職員の技術向上を目指す。
		ICT機器等の適正な管理と利用促進	○安心してICTを活用できる環境の整備	○ICT機器の管理状況の把握 ○講義室等の常備されている機器管理 ○ICT機器の活用研修の実施 ○ネットワーク環境の充実	B	○機器に関しては、十分なものが配置され、機能し、管理されている。 ○管理場所が複数あるため、分掌内だけの確認が難しい。機器の管理をより徹底するため、一か所で管理できる環境を作る必要がある。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校行事を通じた連携	学校行事等の開放と交流	○同窓会との連携	○学校支援、後輩への激励 ○海外学習の支援 ○翔陽祭での物品販売	B	○昨年同様で活動は限定的にならざるを得なかった。 ○昨年同様で役員会のみを実施。全国大会・総体・総文・海外研修等に奨励金支援を行った。
			○地域住民との連携	○地域花壇の管理 ○福祉施設との交流	A	○正門前の町道に例年どおり花の管理ができた。
			○近隣の小学校・中学校・大津支援学校との交流及び共同学習	○農作業体験学習 ○共同学習 等	A	○新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、小学校のみの交流となった。播種のみ実施し、収

						稷は交流できず 小学校単独でお 願いました。
	保護者 との 連携	学校理解の 推進	<ul style="list-style-type: none"> ○育友会との連携 ○育友会総会等の出席率向上 ○保護者への連絡の徹底 ○保護者との情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一役活動（育友会レクレーション開催、翔陽祭バザー、長距離走大会豚汁支援、登校指導、校外補導等）の促進 ○学校支援、海外学習の支援 ○育友会総会、公開授業週間を活用した学校教育活動の理解促進 ○学校あんしんメールの活用促進 ○育友会広報誌「翔陽」の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の感染リスク低減のための基本的な感染対策に御協力いただき、育友会総会を含め多くの行事を実施することができた。 ○同窓会と連携し総体・総文・海外研修等に対して奨励金支援を行った。 ○城北地区公立高校PTA指導者研究大会については、事前資料準備から発表まで執行部役員と教員が連携して取り組めた。 ○あんしんメールを活用して、保護者に情報を伝達することで、育友会との連携を円滑に進めることができた。
	地域と の 連携	連携体制の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携した施策の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会を2回実施 ○地域関係機関や役場との定期的な意見交換 ○大津町企業連絡協議会との連携 ○地域と連携した教育活動の評価と点検 ○クリエイトハイスクールコンソーシアムの設立 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会は6月と2月に2回開催した。しかし、第2回は入学者選抜の日程等で多くの委員に参加いただくことができなかった。 ○クリエイトハイスクールコンソーシアムを、学校運営協議会をベースに設立した。

4 学校関係者評価

- 生徒の探究的な学びが進んでいることが分かったが、育成したい人材像や全体の方向性を分かりやすく定めたほうが良いのではないか。
- 生徒が自らの活動を振り返り自己評価できる取り組みとした方がよいのではないか。
- 総合学科の在り方に魅力を感じる中学生も多い。もっと取り組みを周知してほしい。
- 中学校でも交通安全やSNSの問題について悩んでいる。情報交換をお願いしたい。
- 区長もこの協議会に参加されている。防災教育の視点で協力を仰いだら如何か。
- 自校（小学校）の児童にとって翔陽高校の生徒さんはあこがれ。ボランティアの参加や交流会は大変ありがたい。今後も継続してほしい。
- いじめの問題等への対応は大変であるが、生徒が相談しやすい環境の構築が必要。

5 総合評価

(1) 学校教育目標

自らの将来を、自ら考えて切り開く力を持った生徒の育成を目的として、1年をとおして教育スローガンの「自ら気づき、考え、行動する」を全ての教育活動において意識して実施した。これらの取り組みはキャリア教育発表会や修学旅行探究発表会等の生徒の様子からも大きな成果があったものとする。

キャリア教育は、産業社会と人間、インターンシップ、総合的な探究的な時間を中心に取組み、生徒たちの地域理解、自らの適性や将来を考え、言語能力、問題発見・解決能力を育む良い機会となった。

更には、One Team事業による牛深高校の生徒との交流において、同じ年代の別の地域の高校生の考え方や探究のやり方など知り、生徒・職員にとって大きな刺激となったものと考えている。

グローバルな視点と能力を持った人材育成については、コロナ禍で台湾の修学旅行こそ実施できなかったものの、地域の専門学校やJICAとの連携により、年の近い留学生との交流会等を実施し、多文化理解に繋げることができた。

(2) 重点目標

新しい学習指導要領の完全実施にあたって、教育スローガンの「自ら気づき、考え、行動する」を意識した探究的な学びの実現に向けて、昨年度から本年度も継続して研修を実施するなどして、学校全体で取り組むことができた。特に1年次の「産業社会と人間」、2年次の「インターンシップ」、3年次の「総合的な探究の時間」「デュアルシステム」などの一貫したキャリア教育に学校全体で取り組んだことは、教職員全体の探究的な学びに係る指導力向上に大きく貢献している。その結果として、12月のキャリア教育発表会では全ての生徒が自分の探究活動を自分の言葉で発表することができ、生徒にとって大きな経験になったものとする。

本年度もコロナ禍の影響で、修学旅行を国内で実施することとなったが、旅行先での自身の学ぶ系列の知識・技能を軸にした気づきを修学旅行発表会でまとめて発表するなど、修学の意義を体現する旅行とすることができた。また、グローバルな視点を持てるよう近隣の専門学校の留学生との対面での異文化交流会を実施し、知見を深めることができた。

(3) 自己評価総括表

学校経営においては、総合学科の特色づくりや開かれた学校づくりについては、総合学科研究部やICT運営部を中心に外部との連携や情報発信の面で想定以上の成果を上げることができた。年次有給休暇取得については、一定程度の成果は見られるものの、時間外勤務時間の縮減はほぼ昨年度並みとなり、校務分掌編成や業務の見直しなどの取り組みを検討する。

学力向上においては、学習用タブレットの活用が進むとともに職員研修等により主体的・対話的で深い学びの実現に向けて全職員で取り組めたことは大きな成果である。また、家庭学習時間調査や生徒による授業評価等の職員の主体的な授業改善に向けた取り組みも進めている。本年度はコロナ禍で限定的にならざるをえなかったが、次年度は公開授業での保護者や学校運営協議会の委員の参加などにも取り組みたい。

キャリア教育については、1年次から3年次を見とおした総合学科ならではの探究的な取り組みを進めることができ、その成果は修学旅行探究の発表やキャリア教育発表会に現れている。

進路保障については、進路指導部と3年次が密接に連携して生徒や保護者に適切に情報提供をするとともに、キャリアサポーターによる面談、全職員による一斉面接指導など組織的に取り組み、ほぼ全ての生徒の進路を決定することができた。一部未決定の生徒については、3月以降も支援を継続していく。

生徒指導では、コロナ禍の影響もあり不安定な生徒も散見され、生徒指導部、教育相談室、年次が連携して取り組んだ。問題行動に対しては、事実確認を丁寧に行うとともに、保護者とも密に情報交換し、家庭と学校が連携した指導を行うことができた。その成果もあり特別な指導は、当該生徒が大きく変容するきっかけとなっている。ボランティア活動については、レオクラブの活動や近隣の小学校への学習指導ボランティア、学校・駅周辺の清掃ボランティア等、コロナ禍でも取り組み可能な活動を継続し、生徒の自己肯定感の

向上、キャリア形成の意識向上、地域への愛情の涵養等に繋がっている。

人権教育の推進については、コロナ禍においてもオンラインでの生徒・職員への研修、人権教育LHR、オンライン人権集会の実施や旭志解放保護者会との現地交流会などにより生徒及び職員の人権意識の向上に取り組んだ。また、教育相談室を中心に情報共有の体制を構築し、心配な生徒や気になる事項を共有することでいじめ等の未然防止に努めた。

いじめの問題についてはいじめ防止対策委員会及びいじめ防止対策小委員会（校内）を定期的実施し、生徒の状況を把握することで早期にいじめを把握し、被害・加害生徒に適切な対応を行うことができた。

保健管理については、毎朝の健康観察のタブレットPCによる集約が定着し、生徒の健康状況の把握が円滑に行えるようになり、午前中の早い段階で管理職と共有することができるようになった。

教育環境については、定期的に職員による安全点検を実施して生徒の安全を担保するとともに、5S活動に基づいた安全教育を実施している。また、持続可能な社会づくりの視点からのごみの分別の日常的な指導や節電・節水呼び掛けている。今後は環境美化コンクールの実施など、生徒が体験する形での取り組みを進めていく。

地域連携については、近隣の小学校との交流や、インターンシップ、デュアルシステムなど、コロナ禍でもできる形を模索しながら実施することができた。また、育友会活動も安全面に十分に配慮しながら、少しずつ活動を再開することができ、保護者からも喜びの声が上がっている。

進路指導においても、大津町役場、大津町企業連絡協議会などと連携した取り組みを進め、高い県内就職率に繋げることができた。

クリエイト・ハイスクールについては、学校運営協議会の委員中心にコンソーシアムを立ち上げ、御意見をいただきながら取り組みを進めている。

6 次年度への課題・改善方策

本年度もコロナ禍の影響で、多くの学校行事が縮小を余儀なくされた。しかし、そのような状況においてもオンラインでの実施、オンラインとのハイブリッドでの分散実施、ストーリーミング配信等、できることを工夫して進めることができた。また、ICTの活用に習熟した職員も増えており、保護者への情報発信を積極的に行っている。特に修学旅行における事前・旅行中・事後の情報提供は保護者から高く評価されたが、これらがまだ個人の取り組みとなっているため、事例を集約して周知することで学校全体の発信力の向上に繋げたい。

また、オンラインでの職員朝会やClassroomやチャットを使った情報共有など、コロナ禍をきっかけとして促進された業務改善の取り組みも継続して進めている。

今後、コロナ禍以前の教育活動に徐々に戻っていくことが予想されるが、業務改善につながるなど、よかったものは継続し、全てを従前の状態に戻す発想にならないよう留意する必要がある。

コロナ禍の影響もあり、生活面や情緒面で不安定な生徒が散見され、問題行動に繋がることもあったように感じている。今後も教育相談室、生徒指導部、年次団の連携により問題行動やいじめに対する未然防止の視点で対応するとともに、実際に起こった際には、保護者と連携した学校組織としての対応や必要に応じた外部機関との連携について職員全体での共通理解が不可欠である。

本校のGIGAスクール構想の推進体制はICT運営部を中心に効果的に機能しているものと感じている。今後はこの取り組みを一般化し、持続可能なものとしていくことが課題である。